

日本学習社会学会 第20回大会プログラム



2023年9月2日（土）・9月3日（日）

日本学習社会学会第20回大会実行委員会

（於）鉏路公立大学

日本学習社会学会第 20 回大会の開催にあたって

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日本学習社会学会第 20 回大会を釧路公立大学（北海道釧路市）で、令和 5 年 9 月 2 日（土）～9 月 3 日（日）に開催させて頂くことになりました。

2020 年度と 2021 年度は、ご承知の通り、当初は対面での大会開催を計画しておりましたが、コロナ禍のために、オンラインでの開催となりました。昨年度は、3 年ぶりに対面で開催され、今年度も対面での開催に向けて、鋭意、準備に取り組んでいるところです。

釧路公立大学は、1988（昭和 63）年に当時の釧路支庁管内の 1 市 6 町 1 村（釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、白糠町、鶴居村）が結成した釧路公立大学事務組合により設立された経済学部のみ単科大学です。本大学は、これまで地域に開かれた大学としての歴史を歩んできました。そして、今年 4 月から公立大学法人に移行し、新たな段階に入ろうとしています。

釧路地域は、釧路湿原国立公園と阿寒摩周国立公園を抱える自然豊かなところです。この季節は、毎日くしろ湿原ノロッコ号が運行され、多くの観光客でにぎわっております。また、真夏でも最高気温が 25℃を上回ることが少ない避暑地としても知られています。ぜひこの機会に、本大学にお越しください。

公開シンポジウムは、「小中連携、一貫教育と地域の役割—人口減少社会における義務教育の役割を考える—」というテーマで実施します。前半では、小中連携から小中一貫教育に関する基調講演をして頂きます。後半では、施設一体型義務教育学校の事例、2 年間にわたって小・中学校のあり方についての議論が行われた釧路市、コミュニティ・スクールと小中一貫教育との関係、道東における小中一貫教育をテーマにした発表をお願いして、人口減少社会における義務教育のあり方について自由闊達な討議を行いたいと思います。

20 周年記念シンポジウムは、「共生社会における複合的な生涯学習支援の可能性—先住民族への支援の課題について考える—」というテーマで、共生社会に向けた生涯学習の支援に関する見取り図を模索しながら、特に先住民族への学習支援のあり方について考える機会とします。

課題研究は、研究推進委員会企画「学習社会の新たな視点と課題—ポストコロナ時代における学びの形—」、国際交流委員会企画：「学習支援を通じた学習権保障の取り組み—言語教育を中心に—」という二つのテーマを設定します。

各地で多様な研究や実践をされている会員が集う、年に一度の大会が、多くの成果が得られる機会となりますよう、大会実行委員一同、微力ながら努めます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本学習社会学会第 20 回大会実行委員会

日本学習社会学会第 20 回大会

(1) 大会期間と会場

期間：2023年9月2日（土）、3日（日）

会場 釧路公立大学

〒085-8585 北海道釧路市芦野 4-1-1

連絡先 learningsociety20th@gmail.com

(2) 日程（一部変更の可能性もあります）

各種委員会・理事会	
9月2日（土） 会場：釧路公立大学	
10:30～11:10	年報編集委員会 【101教室】 研究推進委員会 【102教室】 国際交流委員会 【103教室】
11:20～12:40	全国理事会 【第1会議室】
学会大会1日目	
9月2日（土） 会場：釧路公立大学	
12:30～ 13:00～15:00	大会受付・学会受付 【アトリウム前】 課題研究Ⅰ 【121教室】 「学習社会の新たな視点と課題 ーポストコロナ時代における学びの形ー」 課題研究Ⅱ 【122教室】 「学習支援を通じた学習権保障の取り組み ー言語教育を中心にー」
15:15～16:15	総会 【大講義室1】
16:30～18:30	創立20周年記念シンポジウム 【大講義室1】 「共生社会における複合的な生涯学習支援の可能性 ー先住民族への支援の課題について考えるー」

学会及び大会校において懇親会は開催しません

学会大会2日目	
9月3日（日） 会場：釧路公立大学	
9:00～	大会受付・学会受付【アトリウム前】
9:30～12:30	自由研究発表Ⅰ【121教室】 自由研究発表Ⅱ【122教室】 自由研究発表Ⅲ【104教室】 自由研究発表Ⅳ【107教室】
13:00～16:00	公開シンポジウム【大講義室1】 「小中連携、一貫教育と地域の役割 —人口減少社会における義務教育の役割を考える—」

（3）参加費用

一般会員	2,000 円（正会員・臨時会員）
院生・学生会員	1,000 円（院生・学生）

*** 公開シンポジウムのみの参加は無料です。**

（4）会場への交通機関

○釧路空港から JR 釧路駅まで

- ・阿寒バスの釧路空港連絡バスで、所要時間 45 分、料金 950 円

○JR 釧路駅前バスターミナルから釧路公立大学（バス）：

- ・6 番乗り場からくしろバス文苑公住線（孝仁会記念病院行）12 番で、「釧路公立大学前」まで、所要時間：16 分 から 19 分、料金 340 円

- ・4 番乗り場からくしろバス美原線 65 番で、「釧路公立大学前」まで、所要時間：16 分、料金 340 円

- ・4 番乗り場からくしろバス美原線 63 番で、「芦野公園前」まで、所要時間：18 分、料金 310 円

○JR 釧路駅から釧路公立大学（タクシー）：所要時間：15 分、料金 2,000 円程度

釧路市内を走行する主なタクシー会社は、以下の通りです。

- ・釧路第一共栄交通 0154-36-4151
- ・釧路こぼとタクシー 0154-36-3636
- ・金星釧路ハイヤー 0154-22-8141
- ・釧路交通 0154-51-1234

大会開催期間中の釧路駅から釧路公立大学前までの往復のバス停の時刻表は、以下の通りです。

(12)文苑公住線									
釧路駅発	8:25	9:25	10:25	11:25	12:25	13:25	14:25	15:25	16:25
釧路公立大学前着	8:44	9:41	10:44	11:41	12:44	13:41	14:44	15:41	16:44
釧路公立大学前発	10:02	11:02	12:02	13:02	14:02	15:02	16:02	17:02	18:02
釧路駅着	10:25	11:25	12:25	13:25	14:25	15:25	16:25	17:25	18:25

(65)美原線									
釧路駅発	8:15	9:45	11:15	12:45	14:15	15:45	17:15	18:45	
釧路公立大学前着	8:31	10:01	11:31	13:01	14:31	16:01	17:31	19:01	
釧路公立大学前発	7:36	9:06	10:36	12:06	13:36	15:06	16:36	18:06	
釧路駅着	8:00	9:30	11:00	12:30	14:00	15:30	17:00	18:30	

(63)美原線 (芦野)			
釧路駅発	9:20	12:00	16:00
芦野公園前着	9:38	12:18	16:18
芦野公園前発	8:47	12:47	16:47
釧路駅着	9:10	13:10	17:10

釧路公立大学前のバス停の場所は、12番、65番、63番でそれぞれ異なります。正門の前のバス停が65番、斜め(北西側)のバス停が12番、斜め(南東部)のバス停が63番になります。



釧路駅前バスターミナル（8番乗り場）から釧路空港までの空港連絡バスの時刻表は以下の通りです。

釧路空港連絡バス（羽田空港行き）						
釧路駅発	8:25	8:35	11:55	13:50	17:10	18:40
釧路空港着	9:10	9:20	12:40	14:35	17:55	19:25
飛行機出発	9:55	10:05	13:25	15:20	18:40	20:10

釧路空港連絡バス（札幌方面行き）						
	丘珠	新千歳	丘珠	新千歳	新千歳	丘珠
釧路駅発	7:25	7:30	12:40	13:05	15:45	16:30
釧路空港着	8:10	8:15	13:25	13:50	16:30	17:15
飛行機出発	8:55	9:00	14:10	14:35	17:15	18:00

9月3日（日）のみ釧路-関西（大阪）間をPeach便が運航されます。

空港連絡バスの時間は、釧路駅 13:35 出発→釧路空港 14:20→飛行機出発 15:35 です。

バスの正確な時刻表は、大会開催時までに変更される可能性がありますので、当日ご確認の上ご利用下さい。空港連絡バスは現金のみ、路線バスは電子マネーWAONのみ使用可能です。

鉄道につきましては、釧路-札幌間で特急おおぞらが一日6往復運航されています（所要時間4時間30分から5時間程度）。特急電車を利用される方は、JR北海道のホームページで時刻表をご確認の上で来て頂ければと存じます。

（5）ホテルのご案内

釧路駅周辺にはホテルが多数ございます。各自でご手配をお願い致します

連絡事項

1. **学会費の納入** 学会員の方は、本年度会費（一般 8,000 円、学生 5,000 円）を受付横の学会事務局デスクにて納入ください。
2. **理事会** 9 月 2 日（土）11:30 から全国理事会を行います。昼食は事務局で用意いたします。なお会場は、大会議室 1 です。
3. **公開シンポジウム打ち合わせ**
9 月 3 日（日）12:10 から、公開シンポジウム打ち合わせを行います。報告者・司会者の方は、ご出席をお願いいたします。昼食は大会実行委員会で用意いたします。場所は、103 教室です。
4. **会員控室** 控室として、105 教室を用意しておりますので、どうぞ自由にご利用ください。また、1 階のアトリウムも開放されておりますので、併せてご利用ください。
5. **昼食**
大会開催日には、学内の売店・食堂は空いておりません。
9 月 2 日（土）は、同じ会場で北海道経済学会大会が開催されています。会場周辺にはコンビニや飲食店がございますが、多くはございませんので混雑が予想されます。昼食などは、事前にご準備頂くことをお勧めいたします。9 月 3 日（日）の昼食について、お弁当（お茶付）を 1,000 円で予約販売いたします。Google Form の参加申し込みよりご注文下さい。事前に注文された方は、11:30 よりお渡しいたします。
6. **Wi-Fi 環境** 本学では、Wi-Fi 環境が整っております。参加される方には、SSID とパスワードをお渡しいたします。

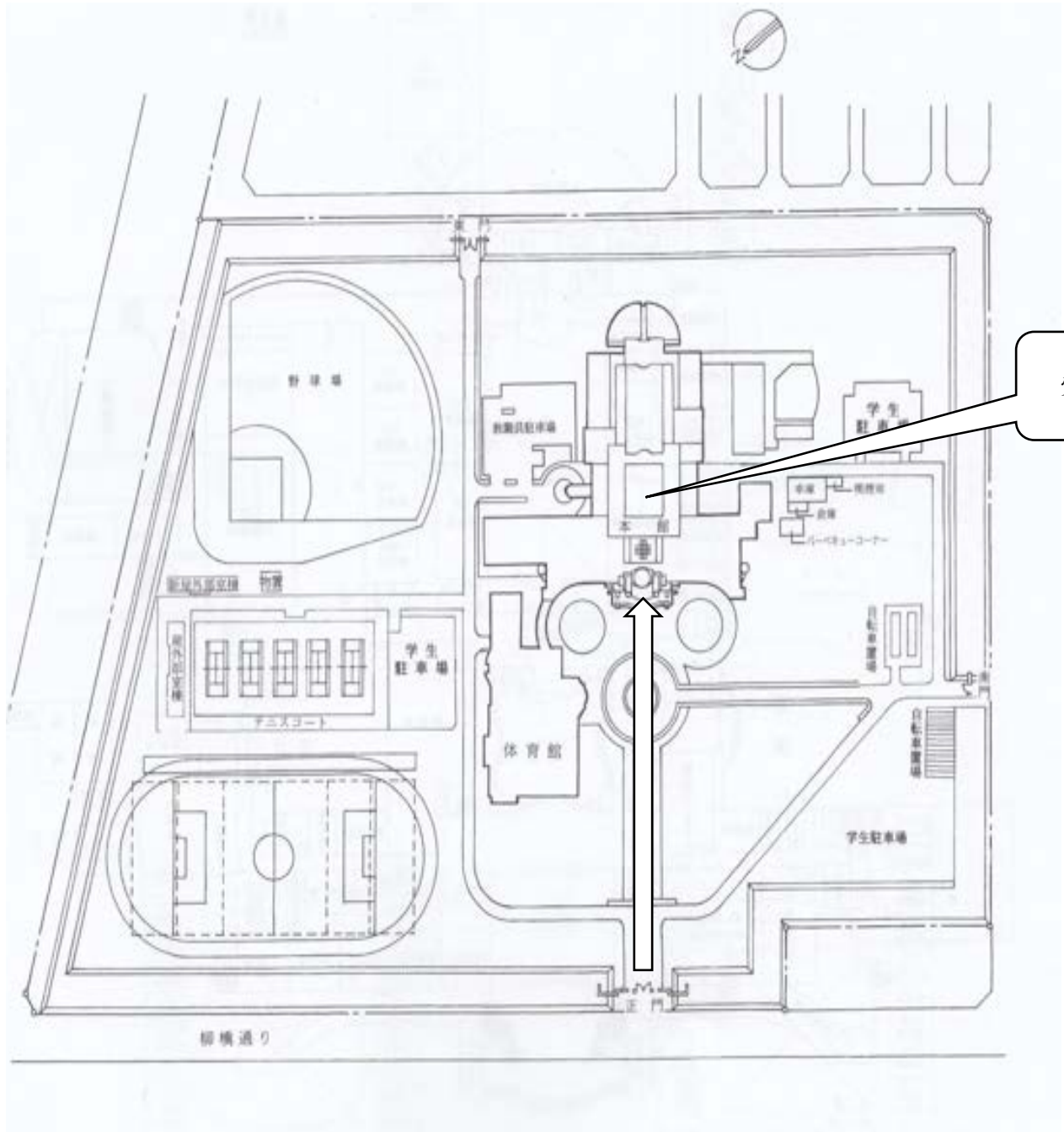
自由研究発表要領

1. 発表時間
個人研究
発表 20 分、質疑応答 5 分
共同研究（口頭発表者が 2 名以上の場合）
発表 40 分、質疑応答 10 分
2. 発表資料
40 部
※会場校での資料のお預かり及び印刷は、お引き受けできません。
3. 発表用機材
発表に際しては、パソコン(Power Point 2016 内蔵)、プロジェクター、スクリーンが利用できます。発表申し込みの際に機器使用を申し込まれた方は、データを USB メモリに入れてお持ちください。
4. 欠席の場合
発表者がやむを得ず欠席する場合は、前日までに下記に必ず連絡してください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。
learningsociety20th@gmail.com
5. その他
発表者の指定時間にかかわらず、各分科会の開始 10 分前までにご来場いただき、司会者に出席を通知してください。
また、配布資料がある場合、各会場のスタッフに資料をお渡し頂き、USB データ確認などが必要な場合、その旨お伝え頂ければと存じます。

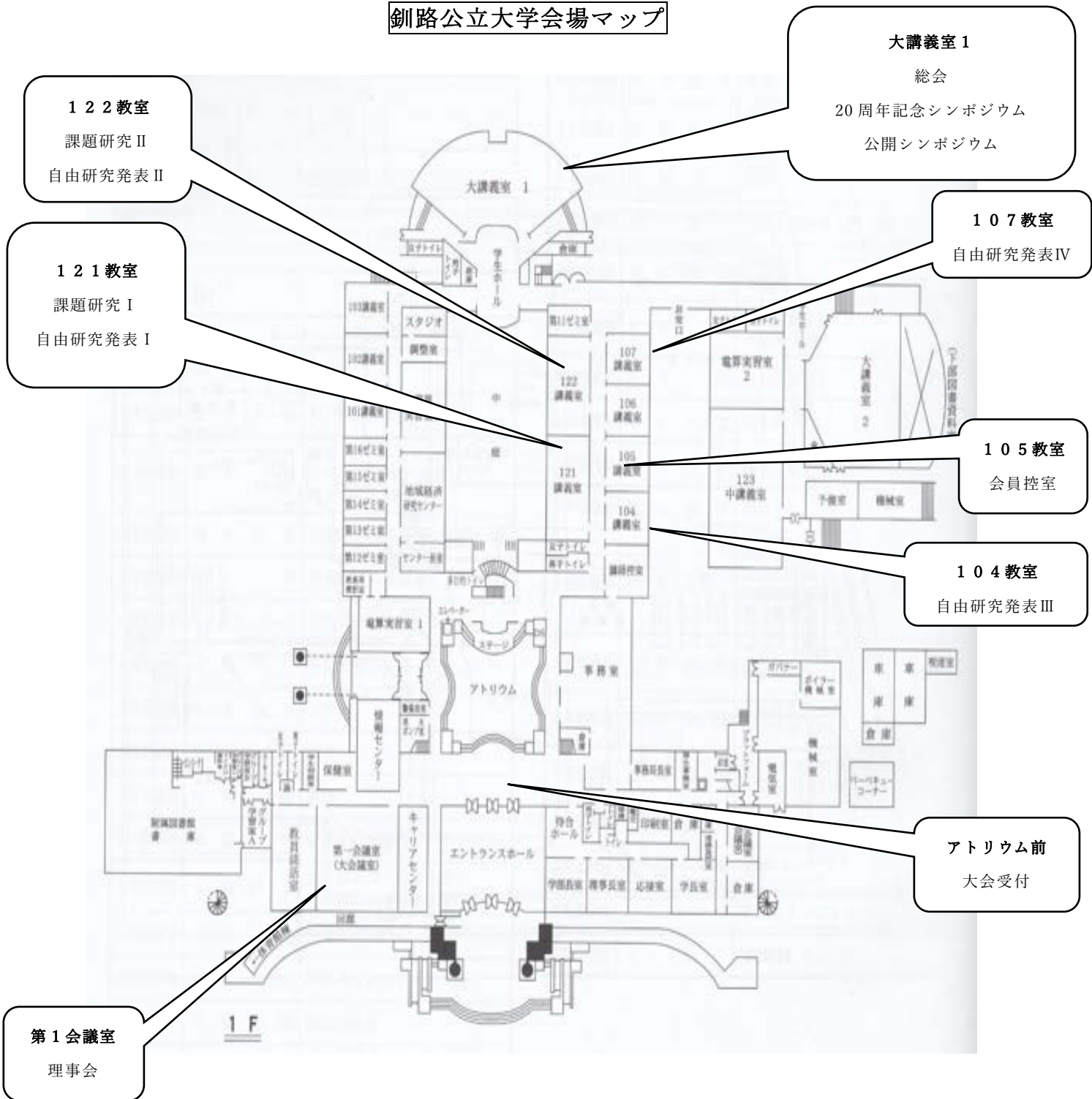
釧路公立大学キャンパス・マップ

<受付>

正門から入り、直進して突き当りの本館1階までお越しください。エントランスホールを過ぎて頂きまして、アトリウムの前にて受付をしております。9月2日(土)は、2階で北海道経済学会2023年度大会が開催されています。受付を間違えないようお願いいたします。



釧路公立大学会場マップ



課題研究 I (研究推進委員会企画)

学習社会の新たな視点と課題
ーポストコロナ時代における学びの形ー
121教室

9月2日(土) 13:00~15:00

趣 旨 :

2020年度以来のコロナウィルス感染拡大により社会活動の大幅な制限が求められ、公教育における諸活動も空間的・時間的な制約の中で展開せざるをえない時期を過ごすこととなった。現在、活動制限も徐々に緩和され、コロナ禍の中で培われてきた教育活動の経験は「学習社会」の姿に新たな様相を見いだす契機と考えられる。

コロナ禍の中で展開された学習活動は、直接的な人と人の接触が制限され、また人間の五感から得られる直接的な経験が制限された特徴をもつものであった。そしてこれまで学習活動が展開されてきた環境とは異なりながらも、社会における学びが停滞することがなく進められていく経験を蓄積したものと考えられる。今大会における課題研究では、この重要な経験を通して獲得された知見から、学習社会を見つめ直す視点と課題を得ることをテーマとして検討したい。

報告者 :

報告 1 : 斉藤翼 (ブリティッシュコロンビア大学博士候補生) 「日加比較によるポストコロナにおける学習社会の課題の一考察 : デジタル不平等を中心に」

報告 2 : 宗像晋路 (川崎市立渡田小学校) 「小学校における新たな学習機会と学習方法」

報告 3 : 島川崇 (神奈川大学) 「専門学校教育における学びの特徴と変化ー社会的なミッションから見えてくる新たな学習社会の姿」

司 会 : 吉田尚史 (福岡女学院大学)

課題研究Ⅱ（国際交流委員会企画）

学習支援を通じた学習権保障の取り組み —言語教育を中心に— 122教室

9月2日（土）13:00～15:00

多文化・多民族化が進む日本社会にとって重要な課題の一つに、多様な背景をもつ社会構成員がその多様性を活かすことの出来る教育の在り方を見出すことが挙げられる。その際、学習支援を通じた学習権保障と言語政策は欠かせない取り組みである。この視点には学校と地域との連携の在り方や社会教育・生涯学習の構造的な理解を得ることが必要である。

そこで、本学会国際交流委員会では、企画課題研究において、学習支援を通じた学習権保障の取り組みとしてインド、タイ、ブータンの3カ国における比較研究を企画することになった。

報告者としては、インドの多文化教育の専門家であり、学習権保障及び先住民の学習権に関わる発表を担当する新関ヴァッド郁代会員、タイのノンフォーマル教育及び識字教育の政策的背景や課題について、実践を通して検討する高坂千夏子会員、ブータンのノンフォーマル教育及び識字教育などに詳しい平山雄大会員にお願いすることにした。

日本社会は少子高齢化やグローバル化などによって多文化・多民族化しつつあり、そのために、外国につながる人々の受け入れを含む諸対策と彼らの社会的包摂及びそのための教育をどのように進めるかが喫緊の課題となっている。以上の3カ国における多文化・多民族化の背景と取り組み、そして政策を中心に行われているところからどのような課題がみえてくるのか。3カ国の事例は、地域社会・異文化間の相互理解が図れる可能性として日本社会に与える示唆は大きいと考えられる。

- ・発表者： ① 新関 ヴァッド郁代（産業能率大学）：インド指定トライブの言語選択をめぐる教育問題 —アルナーチャル・プラデーシュ州タワン県のモンパの事例から—
- ② 高坂 千夏子（東京都立大学大学院）：タイにおける生活に根ざした識字教育実践 —北部国境地域の事例に着目して—
- ③ 平山 雄大（お茶の水女子大学）：ブータンにおける識字教育の取り組み —「ノンフォーマル教育」としての成人識字教育を中心に—

・司会： 呉 世蓮（関東学院大学）

総会

大講義室 1

9月2日(土) 15:15~16:15

＜日本学習社会学会創立20周年記念シンポジウム＞

共生社会における複合的な生涯学習支援の可能性 －先住民族への支援の課題について考える－

大講義室1

9月2日（土）16:30～18:30

＜登壇者＞

司会：岩崎正吾（本学会副会長、首都大学東京＜現：都立大学＞名誉教授）

シンポジスト

報告1：赤尾勝己（本学会会長、関西大学）「共生社会に向けた生涯学習支援－社会的観点を中心に－」

報告2：前田耕司（本学会顧問、早稲田大学）「先住民族との共生とパートナーシップ－オーストラリアの先住民族主体の教育から－」

報告3：山本命（松浦武四郎記念館館長）「松浦武四郎が目指したアイヌと和人の共生」

＜趣旨＞

2004年4月3日に創立された日本学習社会学会は、本年で20周年を迎えることになった。学会創設の理念は、領域的にも方法論的にも既存の枠組みに囚われない学会として出発したところにある。このような本学会の特徴を踏まえて、北海道という先住民族アイヌの地で開催されることに鑑み、共生社会における複合的な学習支援の課題について記念シンポジウムを企画することになった。報告者の発言要旨は以下の通りである。

報告1では、まず、共生社会をめぐる複数の理論的な枠組みを概観し、本報告で依拠すべき共生社会のとらえかたを提示する。次に、共生社会に向けた生涯学習支援を志向しているユネスコの「国際成人教育会議」と「学習都市に関する国際会議」での議論の変遷について紹介する。さらに、日本初のユネスコ学習都市である岡山市と、共生社会に向けた生涯学習支援をめざしている大阪市の事例を紹介する。最後に、複合的な排除要因にさらされている人々のための学習支援の重要性について問提提起を行う。

報告2では、2007年の国連総会で採択された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」をポストコロニアルの起点法的な枠組みとして、先住民族(Australian First Nations)独自の価値体系を組み入れた先住民族と非先住民族との和解を促進するパートナーシップの関係を構築する双方向のTwo-Way Learningの検討を通して、先住民族との共生の可能性について考察する。

報告3では、令和元年5月24日施行の「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」の第3条第3項に、「アイヌ施策の推進は、(中略)アイヌの人々が北海道のみならず全国において生活していることを踏まえて全国的な視点に立って行われなければならない」とあるが、北海道外での取り組みは十分であるとは言えない。そこで、今から160年以上も前にアイヌの人々への理解と尊重を訴えた松浦武四郎を取り上げ、武四郎とアイヌの人々との交流を紹介する。

以上、共生社会の捉え方と学習支援の理論的課題の考察を踏まえて、オーストラリアにおける非先住民族とのパートナーシップ関係の構築から示唆される支援の可能性を検討し、最後に全国的な視点から北海道外での取り組みの有り様を松浦武四郎を先例として分析することにより、共生社会における先住民族支援の課題に迫りたい。

会員皆様の多数の参加を期待します。

自由研究発表 I

121 教室

9 月 3 日（日） 9:30～12:00

司会 岩崎 正吾（首都大学東京《現東京都立大学》名誉教授）

【1】 9:30～9:55

教員の業務改善を進める学校と地域の連携・協働

市野 亮太（日本大学大学院生）

【2】 9:55～10:20

「うらほろスタイル」における「地域をともにつくる学び」

宮前 耕史（北海道教育大学釧路校）

【3】 10:20～10:45

地方進学校の生き残り戦略としての探究学習

若槻 健（関西大学）

【4】 10:45～11:10

「地域創造型」コミュニティ・スクールにおける「ふるさと学習」の展開

安井 智恵（北海道教育大学大学院）

【5】 11:10～11:35

高校の魅力化事業における公営塾の役割と課題
—進学特化型の公営塾に着目して—

佐久間 邦友（日本大学）

11:35～12:00 共同討議

自由研究発表Ⅱ

122 教室

9 月 3 日（日） 9:30～11:30

司会 深見 智一（釧路町立遠矢小学校）

【 1 】 9:30～9:55

教育政策立案における教育行政への専門職集団のかかわり
—北海道言語障害児教育研究協議会に焦点をあてて—

田中 謙（日本大学）

【 2 】 9:55～10:20

1960 年代における工業教員養成所の設立と展開
—名古屋工業大学を中心に—

上原 直人（名古屋工業大学）

【 3 】 10:20～10:45

公設民営短期大学の展開と地域社会

木田 竜太郎（関西福祉科学大学）

【 4 】 10:45～11:10

「地域格差」と「教育諸条件」の改善
～北海道の学力向上政策～

北野 秋男（日本大学）

11:10～11:30 共同討議

自由研究発表Ⅲ

104 教室

9月3日（日）9:30～11:30

司会 若園 雄志郎（宇都宮大学）

【1】9:30～9:55

高等学校国語科における ICT 活用の一例
－書評合戦発表動画の作成から－

星野 寛（東京学芸大学大学院）

【2】9:55～10:20

生涯学習社会におけるスポーツ推進のあり方
－東京都を対象としたスポーツ推進についての考察－

横山 幸祐（国士舘大学大学院）

【3】10:20～10:45

.Jクラブと地域による今後の連携可能性

塩川 雄満（日本大学大学院生）

【4】10:45～11:10

中国における職業生涯の指導に関する考察
－高校の事例から－

黄 為軍（日本大学大学院生）

11:10～11:30 共同討議

自由研究発表Ⅳ

107 教室

9月3日（日）9:30~11:30

司会 大谷 杏（福知山公立大学）

【1】9:30~9:55

大学での国際交流における異文化コミュニケーションの意欲・能力の向上について

- 吉田 林（横浜薬科大学）
- 亀卦川 真美（横浜薬科大学）
- 喻 静（横浜薬科大学）
- 辜 玉茹（中國醫藥大學）

【2】9:55~10:20

ライフキャリアを意識した多文化共生プログラムの試み

星野 洋美（常葉大学）

【3】10:20~10:45

若者向け都市型学習事業における実態と課題

手塚 貴子（金沢星稷大学女子短期大学部）

【4】10:45~11:10

在野研究者学びの姿と高等教育における支援の在り方について

中野 英之（桐蔭横浜大学）

11:10~11:30 共同討議

公開シンポジウム

小中連携、一貫教育と地域の役割

—人口減少社会における義務教育の役割を考える—

大講義室 1

9月3日（日）13:00～16:00

現在、子どもの数が減少を続ける中で、義務教育のあり方が問われている。かつては、学校統廃合が多く行われた結果、地域コミュニティが崩壊する事態が起こった。2004年に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が設置され学校と地域の連携が進むとともに、小中連携、小中一貫教育が始まり、様々な選択肢を検討することが出来るようになった。過疎地域の自治体は、小中連携を強化して地域の特色ある教育を行うようになった。北海道釧路市では、2021年4月から2023年3月まで釧路市立小中学校のあり方検討委員会が開催され、小中一貫教育を推進し、施設一体型の義務教育学校に移行させる答申を出した。

本シンポジウムの前半では、小中連携、一貫教育についての基調講演を行う。後半では、施設一体型義務教育学校の事例、コミュニティ・スクールをはじめとする地域の役割についての報告を行い、これからの義務教育のあり方を参加者とともに考える機会にしたい。

基調講演

吉村 潔（東京女子体育大学／品川区教育委員）

「教育改革の一端を担った小中一貫教育 一品川区教育委員会の取組を中心に」

スピーカー

・岡部 義孝（釧路市教育長）

釧路市がめざす学校のすがた基本計画について

～小中一貫教育と施設一体型義務教育学校の設置に向けて～

・吉村 潔

小中一貫教育の推進に向けて校長として考えてきたこと

・志々田 まなみ（国立教育政策研究所）

小中一貫教育を推進する上での学校運営協議会の機能とその課題

・安井 智恵（北海道教育大学大学院）

小中一貫コミュニティ・スクール浦幌学園における「うらほろスタイル」の取組

司会

田中 達也（釧路公立大学）

※本学会シンポジウムのみ参加は、無料です。学会員以外の方の参加も歓迎します。

—MEMO—

日本学習社会学会第 20 回大会プログラム

印刷／発行 2023 年 7 月 31 日

〒085-0061 北海道釧路市芦野 4-1-1

釧路公立大学経済学部

日本学習社会学会第 20 回大会実行委員会

委員長 田中 達也 (釧路公立大学)

委員 安井 智恵 (北海道教育大学大学院)

委員 川前あゆみ (北海道教育大学釧路校)

委員 深見 智一 (釧路町立遠矢小学校)

委員 細野 歩 (釧路市立鳥取西中学校)

